

経営環境

令和元年度の日本経済は、消費税増税や自然災害の影響に加え、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題等もあり、景気減速感が出てきました。その後、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、景況感は急速に悪化している状況です。

当金庫の営業地域においても、新型コロナウイルス感染症による事業者への影響が拡大していることから、「こぐちさきずうしゆぎ小口先数主義」にもとづく事業者訪問や資金繰り相談窓口の設置により、取引先企業の資金繰り支援に取り組んでまいります。

事業の業績

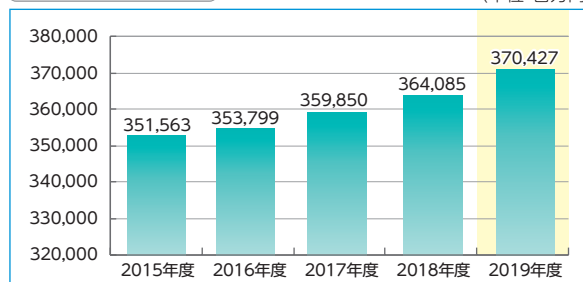
【預金積金】

期末残高は、3,704億27百万円(前期末比63億42百万円、1.74%増加)となりました。科目別残高では、要求性預金1,359億61百万円、定期性預金2,344億65百万円となり、人格別では個人預金3,207億47百万円、法人預金496億79百万円となりました。また、期中平均残高も3,676億75百万円(前期比45億6百万円、1.24%増加)となりました。

当金庫の経営姿勢や健全性をご理解いただき、預金残高は安定的に増加いたしました。

預金積金の推移

(単位:百万円)



【貸出金】

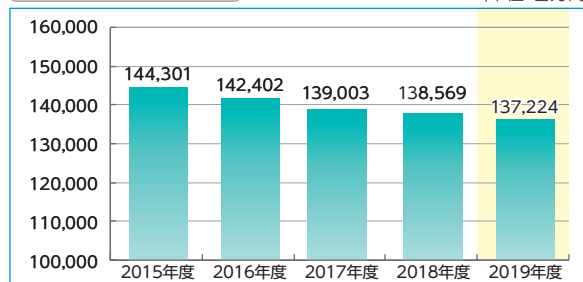
期末残高は、1,372億24百万円(前期末比13億45百万円、0.97%減少)となりました。

科目別残高は、割引手形13億70百万円、手形貸付205億15百万円、証書貸付1,112億91百万円、当座貸越40億47百万円となり、人格別では法人向け貸出金777億29百万円、個人向け貸出金594億94百万円となりました。また、期中平均残高は1,374億58百万円(前期比2億94百万円、0.21%減少)となりました。

今後も、小口先数主義という当金庫の原点に帰った施策に取り組むことで地域社会の発展に貢献してまいります。

貸出金残高の推移

(単位:百万円)



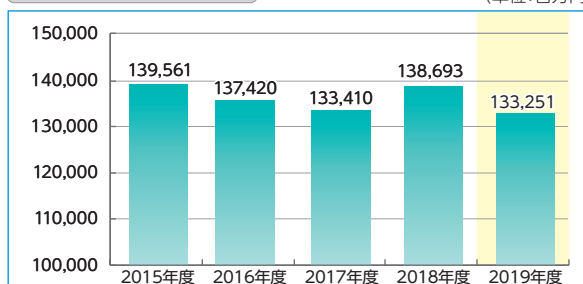
【有価証券】

期末残高は、1,332億51百万円(前期末比54億42百万円、3.92%減少)となりました。

当金庫は、厳格な基準・細則に基づき、安全性や収益性に配慮し、債券を中心とした有価証券運用を行っております。

有価証券残高の推移

(単位:百万円)



【預かり資産】

預かり資産残高(公共債・投資信託・個人年金保険・終身保険の合計)は、167億4百万円(前期末比19億70百万円、10.54%減少)となりました。

投資信託は、主に定時定額取引の増加により、契約者数が増加したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による株式・リートの急落により、基準価額が低下し、残高が減少しました。

また、個人年金保険・終身保険については、既存契約の満期到来により、残高が減少しました。

当金庫では、お客さまの家計の長期・安定的な資産形成のサポートに取り組んでおります。

預かり資産の推移

(単位:百万円)

